

夏になると

夏至の日(6月)は、太陽の高さ(太陽高度)が最も高くなるため、昼が最も長くなります。そして、7月には地面の温度が最高になり、8月には気温が最高になります。そのため、植物の成長や活動がさかんになるのです。

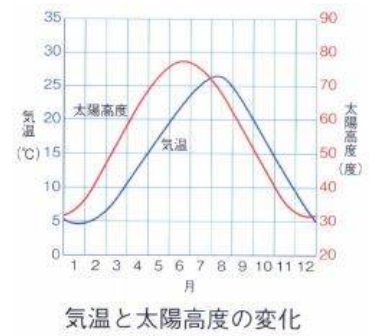
夏至の後は、冬至(12月)に向かって昼の長さが短くなっていきます。すると、

(1…記号で下から3つ選ぶ)などは短くなっていくのを感じて花芽をつくります。

また、(2…記号で下から3つ選ぶ)などは昼の長さに関係なく花芽をつくります。

そのため、(2)などは季節に関係なくビニールハウスで栽培できるのです。

ア.アサガオ イ.ヒマワリ ウ.キュウリ エ.イネ オ.トマト カ.ダイズ



野原の草花

夏は野原にたくさんの草花が生えています。草丈の高い(3)・(4)や、たけが高くない(5)・(6)・(7)のような草も日当たりのよい場所で花を咲かせています。

ヒメジョオン エノコログサ ツクサ オオマツヨイグサ ヤブガラシ

(3)



(4)



(5)



(6)



(7)



家のまわりの草花

オオバコ ヒルガオ
ヘクソカズラ ドクダミ

(8)



(9)



(10)



(11)



垣根につるを巻きつけて花を咲かせている(8)・(9)や、夏の初めに日当たりの悪い木かげなどで花を咲かせる(10)もあります。また、かたい地面に根をはって花茎をのぼし、4月から9月まで花を咲かせる(11)もあります。春から咲き続けているものや夏だけ咲くもの、夏から秋にかけて咲くものなどがまじって、さかんに育っているのが夏に見られる草花の特長です。

花壇の草花

①その日のうちや次の日までには花がしぼみ、次々に新しい花を咲かせる花壇の花が(12)・(13)・(14)などです。

(12)



(13)



(14)



ヒマワリ マツバボタン ヒャクニチソウ
アサガオ ダリア オシロイバナ

②花が何日も咲き続けるのが右の花たちです。

(16)は小さなたくさんの花の集まりで、花びらの目立つ花がまわりにあります。種子ができるのは内側の花で、咲くときは(18…記号で。ア.中心からまわりイ.まわりから中心)に向かって咲いていきます。確実に受粉するためです。

(15)



(16)

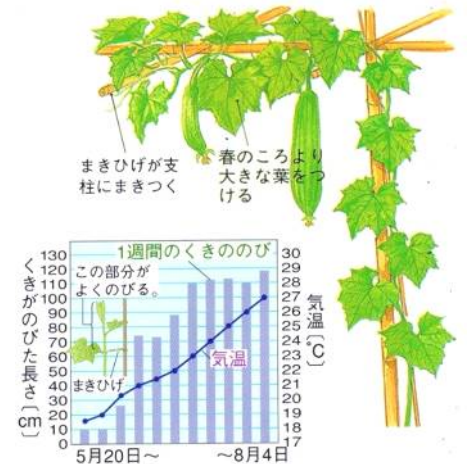


(17)

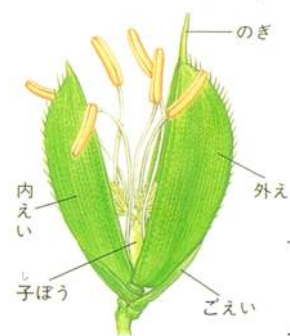


ヘチマ

ヘチマはまきひげを支柱にまきつけてからだを支え、夏にどんどのびていきます。ヘチマ・キュウリ・ブドウのまきひげは(19…葉かくきで)が変形したものです。ヘチマのくきは気温が高くなるとよくのび、雨やくもりの日よりも晴れた日のほうがよくのびます。また、昼と夜ののび方をくらべてみると、(20…昼か夜で)の方がよくのびることが分かっています。さらに、ヘチマの花にはお花とめ花があり、め花の中にたくさんの種子ができます。



イネ



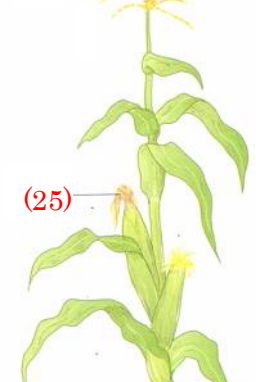
イネの開花は気温が28℃以上になると始まります。

晴れた日の午前(21)時ごろから咲き始め、午後(22)時ごろには咲き終えてしまいます。そして、花が咲くときは穂の(23…下か上で)の方から咲いていきます。また、イネの花には花びらがなく、えいというつくりがおしべやめしべを守っています。このえいは、雨の日やくもりの日には開きません。

トウモロコシ

トウモロコシは、くきの先に(24…お花かめ花で)を、葉のつけねに(25…お花かめ花で)を咲かせて受粉します。(25)の一本一本のひげがめしべの柱頭です。

(24)



(25)

ナス・トマト・ピーマン・ジャガイモなども次々に花を咲かせ実をつけます。

これらの植物は(26)科のなかまです。花のつくりが似ています。



ナス

トマト

ピーマン

ジャガイモ

花を咲かせる木

クチナシ クリ キョウチクトウ ネムノキ アジサイ ザクロ

(27)



(28)



(29)



(30)



夏の初めには、上の木たちが次々に花を咲かせます。この中で花びらを守っているがくが花びらのように見える木が(31…写真の番号で)です。この木に実はできません。そのため、この木は枝を切って土に植える(32)という方法でなかまを増やしていきます。また、葉が夜になると閉じてしまう木が(33…写真の番号で)です。

(34)



(35)



実を食べる左の木々も、夏の初めごろに花を咲かせます。

木の実

コナラ イチョウ クヌギ



緑色の実ができているのが(36)のメスの木です。秋に熟してギンナンになります。ドングリといわれるのが右の木々です。この時期に成長を始めています。

(37)は花が咲いた年にその実が熟しますが、(38)は前の年に咲いた花の実がやっと

(37)



(38)



熟し始めたところです。

花をおとずれる昆虫

夏は、昆虫がさかんに活動する季節です。

モンシロチョウは、黄や白の花によく集まってきますが、赤い花にはあまり寄ってきません。

アゲハ・キアゲハ・(39)・(40)は、ネムノキの花やヤブガラシの花によく集まっています。

昆虫をえさにするもの

カマキリやクモのなかまは、花におとずれる昆虫をとらえようと、待ちぶせしています。

ミヤマカラスアゲハ カラスアゲハ アオスジアゲハ



(39)



ネムノキ



(40)





みずべ 水辺の生き物

池では、ギンヤンマや(44…オス)トンボが飛び回っています。

このトンボのメスは、オスと体(からだ)の色がちがっていてその色から(45)トンボとよばれます。

水面では、オオアメンボや(46)が動き回っています。

ギンヤンマのオスやアメンボはなわばりを持っていて、ほかのオスが近づくと追いはらいます。水中ではメダカやフナなどの魚、マツモムシや(47)などのこん虫が生活しています。

(47)は、水中で生活する日本最大級の昆虫で、セミの仲間です。

みずぞこ水底にはカワニナやタニシなどの貝や、エサを待ちぶせしているしているゲンゴロウやトンボの幼虫(48)などのこん虫がいます。

アメリカザリガニは小さいうちはみずぞこ水底で生活し、大きくなるときしべ(岸)に掘った穴(あな)で生活するようになります。

下の鳴き声のセミを語群から選んで名前を答えなさい。

カナカナカナカナ…(49)

ジージー…(50)

チー、ニイニイ…(51)

ジユクジユク、オーシツクツウ…(52)



ミーンミンミン…(53)

じゆえき 樹液に集まる昆虫

オオムラサキ キマダラヒカゲ

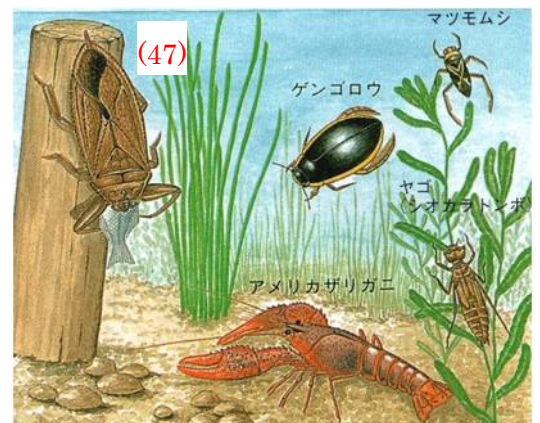
オオムラサキやゴマダラチョウの幼虫(ようちゆう)は、木の葉をえさにしています。ミノガの幼虫(ようちゆう)(41)は木の葉や小枝(こえだ)で巣(す)をつくり、巣ごと動きまわって葉を食べます。カミキリムシやタマムシの幼虫(ようちゆう)は木のみきを食べ、クワガタの幼虫(ようちゆう)は、くさった木を食べて成長します。

左(ひだり)の昆虫(こんちゆう)の名前を答えなさい。また、ホットケーキなどにかけるメープルシロップはサトウカエデ(じゆえき)の樹液(じゆえき)を煮つめた(に)ものです。



(44) トンボ

(45) トンボ



ヒグラシ アブラゼミ ツクツクボウシ
ミンミンゼミ ニイニイゼミ

いろいろな動物

水温が高くなると、海中ではクラゲが多く見られるようになります。クラゲは約5.4億年以上前の先カンブリア代に誕生したと考えられています。



ヤドカリやカニは足に節をもつ節足動物です。引き潮のときにくぼみに海水が取り残される潮だまりのことをいう(54…カタカナで)で見ることができます。



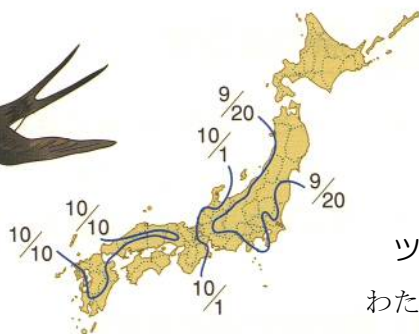
アユは石についた水あかななどをえさにして育ち、秋になると川底に産卵して、(55)年の短い一生を終えます。ふ化したアユは海に出て冬をすごし、春になると川へもどります。ただし、琵琶湖などのアユは湖から離れません。



ヒキガエルの卵は(56)月の初めごろに産みつけられ、ふ化して2ヵ月半ごろにはカエルになり、産まれた池や沼をあとにします。

小さな虫をエサにして成長し、8月ごろには体長が3~5cmになっています。そして、次の年の夏に体長10cmの親ガエルに成長

します。暑い昼間は雑木林の中でじっとして、夕方から一晩中歩き回ってこん虫やカタツムリ・ミミズなどを食べ、明け方になるともとの場所にもどって眠ります。



(57)



ホトトギス



ブッポウソウ

ツバメ・(57…鳥名)・ホトトギス・ブッポウソウなどの夏鳥といわれる

わたり鳥は、夏から秋にかけて、日本でたまごを産み、ひなを育てます。

このとき、ホトトギスや(57)は、

ほかの種類の鳥の巣にたまごを産みつけ、その鳥に子育てをさせます。このことを(58)といいます。これらは、秋になると日本をはなれてあたたかい南の国で冬をすごします。

